



溶接学会若手会員の会 第 67 回運営委員会開催報告

副委員長 山下 正太郎 (大阪大学)・田中 大輝 (東芝エネルギーシステムズ株式会社)

Report of the 67th meeting of WELNET steering committee

by YAMASHITA Shotaro and TANAKA Daiki

溶接学会若手会員の会 運営委員会は、全国大会期間中に開催される若手会員の会の活動計画や今後の展望を討議するための 2 回/年の若手により構成されたディスカッションの場である。2022 年度秋季全国大会が、島根県の「くにびきメッセ」で開催され、それに合わせ以下の日時で第 67 回運営委員会を開いた。溶接学会に参加している若手の技術者・研究者には今後の運営委員会に奮ってご参加いただきたい。

日時:2022 年 9 月 9 日 (金) 12:00~13:00

場所:島根県松江市 くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)

出席者:

鴫田(東北大学), 田中(東芝エネルギーシステムズ), 山下正太郎(大阪大学), 荻野(大阪大学), 庄司(大阪大学), 山本(大阪大学), 渡邊(JFE スチール), 笠野(住友重機械工業), 三浦(大阪大学), 古免(大阪大学), 尾崎(三重大学), 清水(大阪大学), 浅間(三菱電機), 田中(大阪産業技術研究所), 崔(広島大学), 三輪(神戸製鋼所), 波多野(川崎重工業), 本間(日本製鋼所), 山下享介(大阪大学), 村上(大阪大学), 真中(新居浜高専), 伊與田(大阪工業大学), 藤原(ダイヘン), 長谷川(青森県産業技術センター), 野々村(IHI), 坂野(三菱重工業), 東(鹿児島高等専門学校), 鳥形(IHI), 宗村(JFE スチール)

出席者:30 名, 委任:5 名(運営委員総数:40 名)

資料:

welnet 67-0 議案

welnet 67-1 第 66 回運営委員会議事録(案)

welnet 67-2 2022 年度上期活動報告・2022 年度下期活動計画

welnet 67-3 会計報告

welnet 67-4 全国大会関係

welnet 67-5 編集関係

welnet 67-6 広報・ML 関係

welnet 67-7 研究会・施設見学会関係

welnet 67-8 勉強会関係

welnet 67-9 出前講義関係

welnet 67-10 グローバルネットワーク活動関係

welnet 67-11 アウトリーチ活動関係

【審議・報告事項】

議事に先立ち、鴫田委員長より挨拶を頂いた。その後、若手会員の会 運営委員会の新メンバーより自己紹介を頂いた。本委員会より、長谷川様(青森県産業技術センター)、真中様(新居浜高専)、村上様(大阪大学)の 3 名が新たにメンバーに加わった。

1. 第 66 回溶接学会若手会員の会 運営委員会議事録の確認・承認

welnet 67-1 に基づき、第 66 回溶接学会若手会員の会 運営委員会議事録(案)の報告がなされた。本議事録案は、その後の決議により承認された(運営委員数:40 名に対し、承認:30 名、委任:5 名、無回答:5 名)。

2. 2022 年度上期活動報告・2022 年度下期活動計画

welnet 67-2 に基づき、2022 年度上期の活動報告・下期の活動計画について報告された。若手活動に対する協力(ポスターセッションなど)の呼びかけや勉強会開催に関して意見が述べられた。コロナ感染状況によるが、施設見学会を対面開催することを念頭に計画を行いたいなど、今後の活動について活発な議論がなされた。また、本会議での初の提案事項となるが、溶接についてより広く知ってもらうことを目的として、溶接学会イベント(全国大会)、特にポスターセッションなどへの「高校生・高専生招待」について提案がなされた。

3. 会計報告

welnet 67-3 に基づき、2022 年度上期の会計状況について確認された。上期の活動は Web 会議(オンライン)を活用した活動が多く、支出が少ない状況であるが、引き続き適切な会計にご協力いただくことをお願いがあった。今後の計画についても討議され、次年度の活動予算も開示され、承認が得られた。グローバルネットワーク活動費から国際会議助成が可能となるようなスキームを組む予定であることが示唆された。

4. 全国大会関係

welnet 67-4 に基づき、全国大会の活動について議論され、本大会で開催されるポスターセッションへの協力が促された。

資料とは別に、将来的な取り組みとして、ポスターセッションへの高校生・高専生を招待することに関して、その内容(案)が提案された。高校生・高専生参加に伴った諸経費(参加費や交通費など)を若手予算から立替えるなど参加しやすい枠組みを作ることから考える必要がある等の前向きな意見がでた。一方で、テストや他学会(同じ取り組みを行っている学会既に有)との兼ね合い等も考慮する必要があるなど計画的に進める必要があり、次年度の全国大会の状況などを鑑みながら準備を進めていくこととなった。2023 年度春季全国大会のイブニングフォーラムについても議論がなされた。現状、オンライン・対面かが明確でないことより、詳細な議論は避けられたが、発表内容などの要望(内容)があれば参考にしたいことが共有された。

5. 編集関係

welnet 67-5 に基づき、溶接学会誌における若手会員の会担当ページの状況について報告された。学会誌のスケジュール確認、執筆への協力に関するお願い、特に、コロナウィルス感染状況下で情報が不足している国際学会参加者・参加予定者の情報共有・執筆含め、ご協力頂きたい旨、呼びかけがあった。若手担当の特集号の企画について、前回好評であった若手の受賞者を対象としたインタビュー記事を定例化(例えば 2 回に 1 回)することが提案・承認された。またスポットライト記事(溶接タマゴ、溶接履歴)の執筆者が将来的に不足することを鑑み、研究室紹介など「場所」にスポットを当てた記事を検討していくことが提案・承認された。

6. 広報・ML 関係

welnet 67-6 に基づきメーリングリストの配信実績について報告された。溶接学会ホームページが更新され、若手の会のホームページを学会ホームページの一部に委嘱する方針であることが報告された。

7. 研究会・施設見学会関係

welnet 67-7 に基づき研究会・施設見学会について報告された。コロナ環境下で初の対面開催が案内された。2022 年 11 月 29 日(火)に東芝エネルギーシステムズ株式会社にて実施する方向で計画が進んでおり、積極的に参加いただけるよう依頼があった。

8. 勉強会関係

welnet 67-8 に基づき、勉強会開催状況や今後の方針などについて協議された。2022 年 8 月 26 日(金)に 2022 年度第 1 回若手の会 Web 勉強会が開催された旨、報告された。今後の勉強会の方法について、オンライン・対面開催におけるそれぞれでの内容・形式について協議された。研究会との差別化や若手の会活動の多様化などの理由から、勉強会を研究会に統合することが議論された。

9. 出前講義関係

welnet 67-9 に基づき、出前講義に関する情報共有がなされた。講義対象(高校生又は高専生等)およびコロナ感染状況を鑑みて、現状で本年度出前講義を実施予定はないことが共有された。ただし、出前講義用の発表資料の共有は可能であり、鶴田又は山下まで申し出ていただくよう指示がなされた。

10. グローバルネットワーク活動関係

welnet 67-10 に基づき、若手会員の会における GN 活動状況が報告された。IIW2022(東京開催)における若手-特別セッションでの活動が報告された。今後の展望として、海外研究者とのネットワーク形成に向けてオンライン(Web 会議)を活用すること、若手研究者の国際会議参加に対して助成を行うなど、新たな取り組みに関して討議された。

11. アウトリーチ活動関係

welnet 67-11 に基づき、若手会員の会におけるアウトリーチ活動について議論された。アウトリーチとして、出前講義や GN 活動などのコンテンツが挙げられてきたが、コロナ環境への順応を考慮し、これまでの活動をより最適化する必要があることなどが討議された。また、溶接分野をより認知してもらう手段として、学会ポスターセッションや各イベントへの高校生・高専生を招待する等の素案が新たに提案された。今後のより良い活動のため、アウトリーチについては、若手会員の会の全委員と情報共有を進めていく必要がある旨、再確認された。

以上